

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	地域総合支援センター どんぐり河内（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14家族	(回答者数) 11家族
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い園庭や遊戯室があり、心身の発達や体力の強化に生かすことができる。 陸上活動に取り組み、各種陸上大会に出場し、達成感や自己肯定感へとつなげている。	感覚統合遊具やアスレチックを配置し、必要な刺激を統制しながら、体幹トレーニングにも取り組んでいる。 陸上大会では、県内の事業所等を利用する児童とともに、陸上競技場で走る貴重な体験を提供することができている。	DCDのアセスメントツールを活用し、より個別の課題に対応したプログラムを検討していきたい。
2	充実した活動と個別支援を提供することができる。	法人内の他事業所と連携し、活動プログラムを共有しながら、活動内容の充実を図っている。 必要に応じて、法人内のセラピスト（PT、OT、ST）に助言を受け、個別支援に取り入れている。	多職種協働の支援を充実させるためのネットワーク作りを検討していきたい。
3	地域資源を活用した活動や様々な行事を企画し、多様な体験を提供することができる。	外出して地域資源を利用する活動や季節に応じた行事、バーベキューや果物狩りなど、こどもも大人もともに楽しめる活動を実施している。	地域のこども達や住民も巻き込んで、行事や防災活動などを計画していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）と連携して支援を行う体制が不十分である。	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）とのネットワークが構築できていない。	自立支援協議会や個別の会議を通して、顔の見える関係性を築いていく必要がある。
2	HPやSNS等を活用し、情報をこどもや保護者に対しての発信することが不十分である。	情報発信に関して、十分な時間とスキルを確保することができていない。	保護者のニーズを把握し、行事や活動の様子の発信に努めていく必要がある。
3	保護者やきょうだい同士で交流する機会が十分ではない。	年に1回、保護者懇談会を実施しているが、参加が難しい保護者がいる。	保護者懇談会の実施時期、保護者同士で交流ができるような内容を検討していく。 保護者やきょうだいが参加できる行事について検討していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 地域総合支援センター どんぐり河内

公表日 年月日 令和7年 2月28日

利用児童数 15名

回収数 11名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	73%	9%	0%	18%		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	82%	9%	0%	9%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	91%	0%	0%	9%		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	64%	9%	9%	18%		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	91%	0%	0%	9%		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	73%	9%	0%	18%		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%	0%	0%	0%		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	91%	9%	0%	0%		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	46%	36%	9%	9%		保護者懇談会の実施時期、保護者同士で交流ができるような内容を検討していきたいと思います。また、保護者やきょうだいが参加し、楽しめる行事について検討していきたいと思います。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	82%	9%	0%	9%			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	90%	10%	0%	0%	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	64%	18%	0%	18%	保護者のニーズを把握し、行事や活動の様子の発信に努めていきたいと思ひます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	73%	0%	0%	27%	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	91%	0%	0%	9%	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	82%	0%	0%	18%	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	82%	0%	0%	18%	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%	0%	0%	0%	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%	0%	0%	0%	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		地域総合支援センターどんぐり河内		公表日		令和7年 2月28日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1				
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		100%	0%	国の基準に沿った職員配置がなされている。サービス提供時間内に個別支援を提供することができています。	職員間の連携や支援の工夫を検証し、実践につなげていきたい。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		100%	0%	視覚的な支援を取り入れ、個々の特性に応じた配慮がされている。スロープが設置され、車椅子でも対応可能になっている。	雨天の場合は、送迎車に乗る際に濡れる可能性があるため、配慮を行っている。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		100%	0%	基本的にはシンプルな空間に設定されており、特性に沿った落ち着いた環境になっている。感染症対策のため、毎日消毒を行っている。	手洗い場やトイレ等が既定のサイズになっているため、個々の体格に応じて台の設置等に対応している。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		100%	0%	用途に応じて、個別訓練室、遊戯室、カームダウン室を使用することができる環境になっている。	個別訓練室の使用希望が重なった際は、調整しながら、意向に沿えるよう工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		100%	0%	毎月の事業会議及び各事業所でのミーティングを行っている。毎月目標を設定し、振り返りを行っている。	全ての職員が参画できるよう工夫しているが、勤務時間により参加できない場合は、文書等により引継ぎを行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		100%	0%	保護者向け評価表からの意見や保護者等の意向を受けて、業務改善につなげている。	保護者の意向等を把握する機会を増やしていく必要性を感じている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		100%	0%	毎日ミーティングを行い、職員の意見等を把握している。ヒヤリハット事例は、改善策を検討し、早急に対応している。	業務改善が確実に実践できているか適時の確認が必要である。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%	0%	第三者による外部評価を受けており、評価結果を業務改善につなげている。月に1回、第三者委員による生活相談日を設定している。	今後も積極的に第三者による外部評価を受ける体制を整える。
適切な支援の提	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		83%	17%	障害特性の理解、虐待防止、身体拘束、人権研修などの研修を行っている。	全職員が一斉に研修を受けることが難しいため、一部の職員が視聴になることがあるが、確実に研修を受けられる体制を整えている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		83%	17%	支援プログラムを作成し、公表する予定である。	支援プログラムの公表について、保護者に周知を図っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		100%	0%	放課後等デイサービス計画は、こどもや保護者の意向を確認し、日々の支援の中で感じる課題の解決に向けて作成を行っている。	こどもの意向について、聞き取りが困難な場合があるが、意思決定支援に基づき、取り組みを強化していきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		100%	0%	放課後等デイサービス計画は、支援に従事する保育士や児童指導員からの情報を参考にし、ともに検討した上で作成している。	こどもにとって時期を得た必要な支援を中心に放課後等デイサービス計画の検討を行っているが、こどもの最善な利益の視点を意識していく必要がある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		100%	0%	放課後等デイサービス計画の写しを配布し、職員間で共有している。計画に沿った支援を実施し、記録に残している。	放課後等デイサービス計画の共有が維持できるよう日頃から確認していく必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		100%	0%	活動の様子や特記事項は記録を行い、アセスメントに活かしている。	事業所独自のアセスメントシートはあるが、実態に即したアセスメント内容について検討が必要である。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		100%	0%	放課後等デイサービス計画は、国の基準に沿った項目を設定しており、具体的な支援内容を記載して作成している。	放課後等デイサービス計画の作成基準が変更になって間もないため、研修等に参加しながら、ブラッシュアップしていく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		100%	0%	チームのメンバーでアイデアを出し合いながら、ご利用児に即した活動プログラムになるよう立案している。	同法人の他事業所の活動プログラムを参考にするようになり、更なる活動の広がりが期待される。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		100%	0%	個別のニーズや発達段階に応じて、活動プログラムを組み立てており、内容が固定化しないよう工夫している。	アセスメント力を強化し、より個別のニーズや発達段階に即した活動プログラムを設定することができるよう研鑽に努めていきたい。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	放課後等デイサービス計画の中で、個別のニーズや課題に対する支援として、個別活動と集団活動を組み合わせた内容を取り入れ、療育の中で実践している。	限られた時間内で個別活動と集団活動を充実させていくことが課題である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	送迎手順や活動内容、児童の特記事項等を確認し、チームで連携して支援を行っている。	情報共有を徹底しながら、チームでミスを防ぐ意識を高め、児童や保護者の満足度向上につなげていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援終了後にミーティングを行い、振り返りや業務改善について話し合っている。	全職員が意見を出し合い、同じ方向性を共有することができるよう努力している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	活動の様子や特記事項は記録を行い、支援の検証・改善につなげている。	記録に関して、要点を明瞭・簡潔に文書化する力の育成が必要である。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	国の基準に沿って、定期的に放課後等デイサービス計画の見直しを行っている。	障害児相談支援事業所主催のモニタリング会議の実施に向け、働きかけが必要である。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。	日常の支援の中で「4つの基本活動」をより意識できるよう職員の意識づけを図っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	おやつや活動内容にこどもの意見を取り入れながら、自己選択や自己決定の機会を提供している。	今後も自己選択や自己決定をする機会を提供することで、自己決定支援の充実を図ってきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	サービス担当者会議や関係機関との会議には、児童発達支援管理責任者が参加しており、都合がつかない場合は保育士も同席している。	今後も積極的に関係機関との会議への参画を行ってきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	障害福祉、保育、教育等の関係機関との連携を図り、支援を行っている。	地域の保健、医療との連携は十分ではなく、地域のネットワーク作りが必要と考えている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	学校から週間予定表をいただいたり、保護者から下校時間の連絡を受けたりしながら、送迎時の対応やトラブル発生時の連絡を行っている。	今後も、学校との情報共有が徹底できる関係性を維持できるよう努めていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者が利用前の担当者会議に出席し、児童の支援内容や共通事項について情報共有を行っている。	就学前に、利用されている保育所や認定こども園等で過ごす様子を実際に見学することで、更に相互理解が深まると考える。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	相談支援事業所と連携して行っている。	障害福祉サービス事業所と放課後等デイサービス事業所が顔の見える関係性を築くことができる場の創出が必要と考える。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	83%	17%	北部圏域児童発達連絡協議会主催による研修会に参加している。	スーパーバイズや研修を受ける機会の拡大に努めていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	行事に地域の放課後児童クラブを招待し、影絵鑑賞会や交流会を行い、地域のこどもと活動する機会を提供している。	放課後児童クラブとの交流が一時的で終わるのではなく、継続していけるよう努めていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参加し、地域福祉の現状や課題について情報共有を行っている。	地域福祉の課題解決に向けて、自立支援協議会のあり方も含めて、積極的な関わりを行っていく必要性を感じている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳に活動内容や特記事項を記載し、保護者と共有している。送迎時や懇談会にて発達の状況や課題について話し合っている。	保護者との連携を強化し、共通理解を深めていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	年に2回、ペアレントプログラムを実施し、保護者にお知らせ文書にて周知している。	ペアレントプログラムの案内に体験者の声などを取り入れ、保護者の参加を促進してきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に運営規程、利用者負担等について説明を行っている。運営規程に変更が生じた際は、お知らせ文書にて周知している。	保護者にお知らせ文書を配布しているが、質疑がないかの確認を丁寧に行っていく必要がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	児童発達支援計画を作成する際には、保護者の意向を確認している。児童には、利用中に頑張りたいことを聞き取っている。	コミュニケーションに課題がある児童への意向の聞き取りが難しい面が課題としてある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	児童発達支援計画を示しながら説明を行い、同意を得ている。	保育園や幼稚園を利用している児童は、保護者と面談できる機会に説明をするようにしている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	保護者からの相談があった場合に、面談や助言等を行っている。	定期的に面談や助言等ができていない。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	保護者懇談会やふれあい交流会を実施し、保護者同士で交流する機会を設定している。また、ふれあい交流会はきょうだい児も参加できる体制を整えている。	保護者懇談会やふれあい教室は、充実した内容に対して好意的な反応が多くあり、今後も継続して行っていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	公用携帯電話にて適時対応を行っている。相談や申入れがあった場合は、日程を調整して対応している。	面談に関しては、職員配置や活動内容によって迅速な対応が難しい場合があり、日程調整を依頼することがある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	毎月の行事予定表をお知らせ文書とともに配布している。また、行事等の様子を法人のHPに掲載している。	全ての行事をHPに掲載できていないため、情報発信の強化を進めていく必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報に関する書類は、個別の連絡帳に入れて配布している。ケースファイルは施錠できる文書棚に保管している。	個人情報の取扱いには十分気をつけているが、人為的ミスが発生したケースもあるため、ダブルチェックする体制を整えている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	連絡をする時間や内容に配慮し、適した手段を用いるよう配慮を行っている。	適時、配慮が適切であったか、振り返りを行い、改善を図っていく必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	クリスマス会に地域住民によるハンドベル演奏会、影絵鑑賞会、読み聞かせを行った。	地域住民との交流が一時的で終わるのではなく、継続していけるよう努めていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各マニュアルを策定し、ファイルを事務室や玄関に保管している。計画に沿って訓練を実施している。	保護者へ各マニュアルの内容について周知できるよう配慮をしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に研修や訓練を行っている。	保護者へ業務継続計画の内容について周知できるよう配慮をしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	契約の際に服薬やてんかん発作等について確認をしている。臨時の服薬に関しては、送迎時や連絡帳にて確認を行っている。	事業所からも服薬や予防接種、てんかん発作等の状況把握を積極的に行っていく必要がある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	食物アレルギーのある児童について、事業所で調理を実施する場合やおやつ提供の際は、その都度保護者に確認をしている。	食物アレルギーのある児童が利用開始する際は、医師の指示書に基づく対応する体制を整えていく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を策定し、必要な研修や訓練を実施している。安全点検表を用いて、施設内外の安全管理を行っている。	全職員が安全計画への理解が深まるように定期的に周知していく必要がある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	策定した安全計画を保護者に配布し、周知を図っている。	保護者にお知らせ文書を配布しているが、質疑がないかの確認を丁寧に行っていく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットの防止策をチーム内で検証し、共有している。防止策が継続して実施されているが、振り返りを行っている。	日常にあるヒヤリハットを文書化することが定着するよう働きかけていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止委員会を設置し、少なくとも3か月に1回以上開催し、ケースの周知や今後の対応について協議している。虐待防止研修を実施し、するとともに、定期的に虐待防止チェックリストに基づき、振り返りを行っている。	職員同士のコミュニケーションを図りながら、チーム支援を行い、不適切な支援につながらないような環境づくりを行っていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束適正化委員会を設置し、少なくとも3か月に1回以上開催し、身体拘束の状況や今後の対応について協議検討している。現在、対象児童はいないが、身体拘束を行う場合は、委員会の中で協議した上で決定している。児童発達支援計画に記載し、保護者の同意を得た上で、支援内容を記録に残すようにしている。	身体拘束について、具体的な解除方法の事例等を共有する研修を行うことで、理解を深めていきたい。	